

# さいたま教区報

THE SAITAMA DIOCESE NEWS

2012年4月8日発行

発行所

カトリックさいたま教区

発行責任者：岡 宏

〒330-0061

埼玉県さいたま市常盤 6-4-12

電話 (048) 831-3150

FAX (048) 824-3532

印刷所：前橋教会他

第37号

## 第二バチカン公会議開催五十周年を迎えて

さいたま教区 司教 谷 大二

東日本大震災と福島第一原発事故から一年になります。被災地の復興はまだまだ時間がかかります。さいたま教区では「もみの木」を一つの拠点として活動を進めています。信者の皆様、教会外の皆様の協力、ボランティアによってこの活動を支えられています。心から感謝します。これからも継続的にボランティア、支援をよろしく願います。

さて、今年は第二バチカン公会議開催五〇周年にあたります。第二バチカン公会議は一九六二年一月一日に開催され、三つの会期をもって、一九六五年一月八日に閉会しました。公会議五〇周年を記念してベネディクト一六世は二〇一二年一月一日から二〇一三年一月二四日までを信仰年と定めました。

これまで開かれたほとんどの公会議は誤った教え（誤謬）の排斥や

教えの確認のためでした。しかし、第二バチカン公会議はそうしたもとのとは全く異なった性格のものでした。この公会議とエルサレム公会議（使徒言行録15章）の二つの公会議は教会が大きく「信仰の門」（使徒言行録14・27）を開いた画期的な公会議と言えます。この公会議の目的は次の二つでした。一つ目は教会の刷新を図り、現代人につながる形でイエスの福音を生き、宣教できるように教会を現代化する事、二つ目は分かれた兄弟姉妹（キリスト教の諸教会）との一致をめざすこと（パウロ六世の開催演説）。

この公会議では四つの憲章、九つの教令、三つの宣言が出されました。なかでも重要なものは次の四つの憲章です。『教会憲章』、『啓示憲章』、『典礼憲章』、『現代世界憲章』。これらの公文書全体の特徴を挙げると次のようになります。①初代教会に戻る（キリストを中心に、

聖書を大切に）、  
②典礼の刷新（それぞれ言語によるミサ）、③神の民としての教会（信徒使徒職の確認）、④多様性の中的一致（教区の独自性と司教の団体性）、⑤教会外の人々との対話、⑥小さくされた人々との連帯、⑦信教の自由の確認、⑧絶えざる刷新と現代化。

世界の教会はこれによって刷新されてきました。日本の教会も、諸委員会の設立、『日本の教会の基本方針と優先課題』（1984）、平和旬間（1982）、全国福音宣教推進会議（1987、1993）、折々の司教団メッセージなどをおして絶えず刷新と現代化を進めています。

長江司教もこの公会議に参加し、『典礼憲章』の作成に尽力されました。少し余談になりますが、長江司教が私に話してくださいました公会議



## 教区事務所より お知らせ

- 4月 4日(水) 聖香油ミサ・水戸教会  
 5月 3日(木) 渡瀬鬼石殉教者顕彰祭  
 5月 6日(日) 上福岡教会献堂式  
 9月 17日(月) 子ども教区大会・宇都宮海星学園  
 9月 22日(土) 北関東キリシタン殉教祭・古河教会  
 11月 3日(土) 前橋教会80周年  
 11月 11日(日) 飯能教会50周年  
 11月 23日(金) 松が峰信徒会館・司祭館落成式

### 平和旬間ミサ

8月 4日(土)/5日(日)/11日(土)/12日(日)  
 司教ミサは、12日のみ 場所は、未定・四地区で。

### 人の動き

#### 帰天

- パウロ小倉三郎師 1月 3日 (享年 86歳)  
 秩父教会で葬儀ミサ  
 シャールアントレ・フロアック師 2月 16日 (享年 86歳)  
 伊勢崎教会で葬儀ミサ

#### 異動

- 茨城東ブロック  
 マルティヌス・パリヤント 日立教会担当  
 千原通明 那珂教会  
 ウィリアム・ドネガン 水戸教会  
 コルネリウス・ビファー 友部教会  
 トニー・ビスワス 鹿島教会  
 中澤 享二郎 茨城東ブロック協力助祭

- 茨城西ブロック  
 楠木 宗真 つくば教会担当  
 ロス・デラクルーズ つくば教会協力

#### 他教区へ

- スリ・ワルヨ 新潟教区  
 川又巳三男 新潟教区  
 アンドリュウ・ヒーラー フィリピンへ  
 ベロッティ・ジャンルーカ師 埼玉南ブロック担当 草加在住  
 加藤智師 群馬西ブロック担当(注) 伊勢崎在住  
 (注)伊勢崎教会は、群馬東に属するが、司牧は群馬西ブロックと共に宣教司牧  
 清水 宏師 引退 アルスの家  
 谷 国定師(グエン・クオック・ティン) 留学  
 ジャック・セラール師 サバティカル(5月～11月)  
 國本俊一師 (グエン・ゴク・トアン)  
 埼玉東ブロック担当 大宮在住  
 グエン・ゴン・ホアン師  
 埼玉西ブロック担当 川越在住  
 姜 玫周師 群馬中央ブロック担当・前橋在住  
 佐藤 智宏師 埼玉南ブロック担当・浦和在住

こぼれ話を二つほど。  
 「公的な会議が終わると、わたしたち(長江司教)は毎晩のように「バー・ヨナ」(バルヨナリヨナの子をもじった店名、公会議中のみ開店)に通ったもんだ。友人の司教たちとワインを飲みながら、夜遅くまで話し合ってたね。そこで話された内容が公会議の議論の方向性を決めることになったんだよ。」

「『典礼憲章』が出された時、記者が取材に来てね。典礼の各言語化や典礼様式は日本ではどうなるのか、と聞いてきた。そこで、思いつ

きで、日本での礼拝の形はこうなるんだと言って、頭を深々と下げたんだよ。それが、写真付きの記事になって世界に流れてね。結局、日本の礼拝様式として取り入れられることになったんだよ。」

この公会議によって、長江司教自身も回心、刷新されました。その長江司教のもと、さいたま教区で働く司祭たちもこの公会議の精神によって回心、刷新されてきました。私もその末裔ということができるとしよう。多くの信徒たちも公会議の精神を学び、教会の刷新を共に担っ

てきてくださいました。今のさいたま教区の姿はまだ公会議の精神を十分に実現しているとはいえませんが、先に挙げた八つの特徴を少なからず表現できるようになっています。私も自身もさいたま教区の教会のイメージ、モデルを初代教会に置いて歩んできたつもりです。

いま、公会議開催から五〇年がたち、第二バチカン公会議という言葉さえも過去のものと感じる人々が増えてきました。青年たちばかりでなく、多くの信徒もそうでしょう。これを機会に、公会議の公文書、特に

四つの憲章を是非読んでみてください。一人で読むのは大変でしょうから、教会の勉強会などで司祭やシスターを囲んで一緒に読んで、学んでください。また、日本の司教団の発表してきたメッセージなどもこれを機会に読み直していただければ幸いです。

そして、原点に戻って、第二バチカン公会議の精神に戻って、教会の絶えざる刷新と現代化を進めていきたいと思います。

